



演劇チームの仲間と話し合うトニー



アシストアフリカ!

アフリカは今、世界でも最大規模の国内避難民と難民を抱える地域です。「アフリカ最大の難民危機」と指摘されるほどの事態にもかかわらず、その実情が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られています。日本から約1万km離れた大陸で、何が起きているのか。タウトク編集部では、南スーダン、ケニア、ウガンダ、シエラレオネで活動するNGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、アフリカが抱える問題を少しずつもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円をアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろいろな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動レポート」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみてください!
<http://peace-winds.org/>

タウトクでは毎月、アフリカの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク5月号の販売部数

●部×●円=●円

を支援金としてPWJを通じアフリカの国内避難民・難民支援事業に送りました。

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

ケニア カロベエイ難民居住地区で夢を切り開く

ケニア北西部、南スーダンとの国境近くに「カロベエイ難民居住地区」という難民が暮らす場所があります。「難民キャンプ」は一時的な避難場所ですが、「居住地区」は建設した学校・医療施設などを地元の人たちとも共有し、共存共栄できるよう開発されています。



難民の若者たち

このカロベエイで暮らしているのが、現在22歳のトニーです。アフリカ中央部に位置するコンゴ民主共和国(以下、コンゴ)で生まれ育ち、子どもの頃から映画が大好きな青年です。コンゴで暮らしていたときには、映画を見るために拾い集めた薪と米を入場料の代わりに支払い映画館に通っていたそうです。

カロベエイに到着した彼にとって、最大の難関は英語でした。カロベエイでは、人々は主に英語やスワヒリ語を話しますが、コンゴではフランス語が公用語のため最初は苦労しました。「僕はここに辿りついたときは英語が話せなくて、挨拶も水の場所を尋ねることもできなかった



カロベエイでの勉強道具

んだ」と話すトニーですが、学校で一生懸命勉強し、今では不自由なく英語を話せるようになりました。さらに居住地区内のメディアトレーニングプログラムというメディアに関する知識と技術の向上を目的としたプ

ログラムに参加できる機会を得て、そこで同じ夢を分かち合える多くの仲間に出会い、英語を使い交流し、お互いの夢を語り合うようになりました。

彼らが結成した「永遠の平和」と名付けた演劇チームは、様々な国籍の難民と現地住民から構成されており、彼らは「平和のメッセージ」を伝えるために活動しています。トニーが役者として出演している「AMANI MILELE (永遠の平和)」という短編映画は、難民と周辺コミュニティの間の平和的な共存について描かれており、この映画は何万人の難民と近隣住民に鑑賞されました。(映画はYouTubeで「AMANI MILELE」と検索すると、英語字幕付きのものが閲覧可能です。)

「僕の両親は、「トニーの未来は希望に満ちているよ。でも、愛と平和がなければ人生は成功しないよ」と教えてくれたんだ」とトニーは話します。映画で生計を立てるため、そして何より世界に平和を広めるために、彼は今日も映画作りに励んでいます。彼の夢は、いつかハリウッドに挑戦することだそうです。

紛争や自然災害から逃れてきた難民が、希望を捨てずにケニアで生活しています。PWJは彼らの人生が、より多くの希望に満ちたものになるよう、彼らと共に歩んでいきます。

ケニア事業担当 本田佳織

*本記事はFilm Aid クアチ・アンジェロに取材協力を依頼しました



談笑する居住地区の人々